

第6回福崎町総合教育会議会議録

開催日時 平成29年7月7日(金) 13時26分～14時55分
開催場所 福崎町役場 2階 大会議室
出席委員 福崎町長 橋本省三
福崎町教育委員会 教育長 高寄十郎
教育委員 石川 治、桑谷祐顕、谷口喜久美、西井裕子
事務局 福崎町教育委員会学校教育課長 岩木秀人、社会教育課長 大塚久典、
学校教育課主査 宮本江利子
傍聴人 1名
オブザーバー 福崎町総務課長 山下健介、
福崎町教育委員会学校教育課学校教育指導員 三輪和幸、
福崎町教育委員会社会教育課社会教育指導員 高橋 渉

(司会) 学校教育課長 (議事進行) 橋本町長

1、開会

(事務局) 失礼いたします。定刻よりも少し早いのですが、お揃いでございますので、ただいまから第6回福崎町総合教育会議を開会させて頂きたいと思っております。橋本省三福崎町長様からごあいさつを頂きます。よろしく願いいたします。

2、あいさつ

橋本省三町長からあいさつがありました。

(橋本町長) 週末で大変出にくい時間帯にもかかわらず、ご参集を頂きまして、誠にありがとうございます。本日の協議事項につきましては、平成29年度の計画で、教育の努力目標でありますとか、教育委員会における主要事業の報告があるそうであります。それらを踏まえた上で、実はこの3月定例議会における私のほうからおこなった所信表明演説の文章をみなさまにお配りさせて頂きました。これについて、1ページ目は、世界を取り巻く環境についてでありまして、アメリカではトランプ新大統領が誕生したということと、北朝鮮における困難の話がありました。また、国における財政フレームですとか、景気対策ですとかが書いてあります。2ページ目を開いていただきますと、「創意工夫で輝く町」を築いていきたいと、3つの未来像を上げさせて頂いております。一般会計87億円の予算の中で、JR福崎駅の周辺整備が4年目に入ることになっています。この事業進捗において、事業量が大きく減少したことにより、前年度比8億3,000万円の減という一般会計を持たせて頂いております。国においては、社会保障を大きく見直していくといったような動きになっています。特別会計における国民健康保険事業については、平成30年度から県が財政運営の責任を担うという形で、今現在は、厚生労働省と各都道府県とが協議をしているという状況でありまして、福崎町だけの話で言いますと、一人あたりの保険給付費が非常に低いと。また、保険税についても、負担分が非常に低いということもありまして、国・県が示している事業費・保険給付費等の負担額とは大きく差異が出ております。これらの差異については、一度に埋められないので、穴埋めのための施策として、激変緩和策が今、国や県のほうで考えられていると。なおかつ、考えられているのですが、福崎町から見ると、大きな差があるということもありまして、そういう事柄への対応も余儀なくされているところであります。また、後期高齢、75歳以上の方々の

医療費であります、これも2年に一度の見直しということで、平成30・31年度のもので29年度で協議されるということになっております。また、31年度からは、私が後期高齢医療事業における副管理者になりますので、今現在は私は後期高齢の広域議会における議員であります、これらは副町長が議員になるというような議会の議決を受けて、そのような役員交代等もやらなければならないということになっております。介護保険事業につきましても、30年度から3年間の計画を、この29年度に立てるということで、これら、国民健康保険・後期高齢・介護保険を来年30年度に一度に改正を加えていくということもありまして、大きく高齢者に対する事業の転換を余儀なくされており、このようなことにどう取り組んで行くかということが一つの目玉になるのではないのでしょうか。2ページ目の下段のほうであります、【小さくても活力を感じられる町へ！】という中で、やはり福崎駅周辺整備事業、これらは平成26年度から始まっておりまして、30年度までの5カ年計画で事業を進めています。予算的・事業費的には、30年度の当初予算も確保できるのではないかと考えていますし、この7月の10何日かに末松参議院議員、それから山口つよし衆議院議員を踏まえた上で、国土交通省にお願いにあがる予定です。それらの対応で多分大丈夫だと思っています。その中で、福崎駅周辺整備事業は、また次の議会での論議がされる訳ですが、大きくは県道甘地福崎線、駅南幹線、それから都市計画道路の福崎駅田原線、これら3つの幹線道路と駅前広場、それと駅前のロータリー部分について、キスアンドライド、タクシーの待合、バスの待合といったようなスペース、それとともに駅前広場を作りまして、観光案内センターを設けて辻川界限へ繋げていくという中で、「訪れやすく住みやすい町、福崎」を進めさせていきたいと思っています。そういう公共交通形成をやっていかなければいけません。農業においては、高岡・福田地区のほ場整備を推進いたしますし、プレミアム付きの「なっ得商品券」は発売予定ですが、例年は5,000万円でしたが、本年は7,700万円という中で、福崎町の商業や小売店の活性化を図っていきたく思っているところです。また、第4回の造形コンテストを開いて、それらを通じて柳田國男先生を顕彰しながら、妖怪に対応していこうというところでもあります。2点目は、【文化力あふれる風格ある町へ】です。昨年は、町制施行60周年でありますとか、井上通泰先生生誕150周年を記念した山桃忌等を開かせていただきました。本年は、それらに合わせ、辻川界限における不易の部分、いわゆる柳田國男生家でありますとか、リニューアルされました大庄屋三木家、土曜・日曜日に公開する中で展開をさせていただき、また11月はすべての日に公開するという対応を考えているところでもあります。3つ目の未来像は、【住み続けたい未来へつなぐ町へ】ということです。就学前教育や保育事業を幼保一体化施設である認定こども園において、すべて運用させていただいております。これらについては、子どもたちを19:00まで預かるという形を整えておりますし、小学校の学童保育につきましても、18:00までだったものを19:00まで預かるというような形で推し進めている中でやっております。当然、子育て世代の包括支援センターについては、妊娠から出産までの対応でありますとか、不妊治療でありますとか、そういう分野も整えさせていただいております。一番大きいのは、小中学校における児童生徒・教職員用のパソコンの入替であります。前回、入札を行ったわけですが、業者等が入札内容について少し誤解をしていたようで、これら入札の在り方については、もう一度見直しをしながら図っていきたく思っております。本年度の予算でありますので、できるだけ今いる子どもたちにそのサービスを与えてやりたいと思っております。健康分野については、未就学児に対してのインフルエンザ予防接種費用ですとか、要求度の高かった小中学校の児童生徒のインフルエンザ予防接種につきましても、予防費全体の中で費用が捻出できるよう、検討を加えようとしています。私自身は、もし現有予算で対応できなくても補正予算をもってインフルエンザ予防接種につきましても、中学3年生まで無料という対応をしていきたく思っております。また、障

害福祉計画であります。要援護者に対する取り組みも出てきています。また、災害につきましては、この度から全然違った形の中で、この播磨地方につきましては、生野ダムが一番少ないときで貯水量が38%、この度の雨で56%まで復活しております。これらについても、対応の在り方を県との関係も含めまして、考えていかなければならないと。とりわけ、稲作には水が必要ですし、私どもも生活していく上において、水が一番必要であります。それらの確保も考えていかなければならないというふうに思っております。それ以下、4枚目の29年度における各課ごとの主な事業については、後ほどお目通しいただきたいと思っております。これらを踏まえまして、福崎駅周辺整備、少子高齢化対策、安全安心なまちづくりといった中で実現させていきたいと考えております。また、地方創生等につきましても、28年度と同じく29年度も取り組んで参るところでございます。とりわけ、妖怪事業の話もありますが、農業を中心とした福崎町本来のあるべき姿の地方創生に目を向けたいと思っております。本年5月には、住民のみなさまにご協力いただき、大庄屋三木家で五月人形展を開催することができました。また、来年のことになりますが、ひな祭りについても住民のみなさまのご協力を頂きたいと思っております。「活力にあふれ 風格のある 住みよいまち」を目指して、現在、国や県・住民のみなさまのご協力・ご支援をいただきまして、推し進めていくと申し上げまして、本日のごあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

(事務局) ありがとうございます。本日のご出席者の名簿につきましては、資料の1ページにお示しさせていただきます。また、本日のオブザーバーといたしまして、総務課長山下健介様、それから教育委員会学校教育課学校教育指導員三輪和幸様、社会教育課社会教育指導員高橋渉様にご参加いただいております。また、総合教育会議は、原則公開となっております。本日も傍聴の方1名出席をいただいているところでございますので、よろしく願いいたします。

3、議事録署名人の指名

本会の署名委員として橋本町長から高寄教育長・石川教育長職務代理者を指名しました。

4、協議、調整事項

- ・平成29年度計画について（教育委員会関係）
 - ①平成29年度福崎町教育の努力目標について
 - ②平成29年度予算主要事業について
- ・自然学校について
- ・意見交換

(橋本町長) それでは、次第の4番目、協議、調整事項に入っていきたいと思っております。1点目の「平成29年度計画について」、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) 失礼いたします。それでは、お手元の資料の2ページからでございます。説明は失礼して座らせていただきたいと思っております。2ページから6ページにつきましては、平成29年度福崎町教育の努力目標でございます。4月に福崎町教育委員会で定めさせて頂いた分でございます。こちらにつきましては、昨年度から変わっている箇所には波線の下線を入れている形とさせていただきますので、本日の説明のほうは省略させていただきます。続いて、平成29年度の主な事業の進捗状況につきまして、7ページからの資料で説明させていただきます。7ページをお開きください。「平成29年度予算 主要事業」という資料になります。そちらで、教育委員会で行っている事業のうち、今年度の進捗を報告させていただきます。まず、7ページの

中段の下に、「◆国際化」というところがございます。こちらは、国際教育推進事業という中で、ALT 2名により国際理解教育を推進をしているところでございます。今年度につきましては、公立幼稚園4園の5歳児におきまして、英語あそびを取り入れているところでございます。4月から始めておりまして、ALT 1人が2園を担当するというような形で、毎週金曜日に1つの園に行っております。ALTにつきましては、キャスリン先生と胡先生のお2人で進めていただいているところでございますが、キャスリン先生が今月で2年の契約期間が終わるということで、今月末で帰国をされるということを言われております。また来月からは、その後任の方が来られるような段取りを進めていただいておりますので、そこで担当の交代ということもございます。また、福崎町としては、初めての取り組みというところもございまして、ALT相互の進め方、また園とのフィードバックをしながら進めているところでございます。次に、8ページをお願いいたします。8ページの上から10行目くらいのところで、スクールソーシャルワーカー中学校1人というところがございます。今年度は西中学校区に1人を配置させていただいているという考え方で、5月から活動をしていただいております。県の事業を使っておりますので、週7時間45分以内という勤務ではございますが、その中で取り組んでいただいております。現在、福崎小学校の1年生の女子児童について主に活動をしているというところでございます。次、それから7行ほど下に行きまして、先ほど町長からお話いただきました、児童生徒用教育用パソコンの更新、支援システム等導入事業でございます。こちらにつきましては、6月28日、先週に入札を行いました、業者の事務のミスがございまして、契約には至っておりません。それによりまして、計画しておりました、夏休みに入れ替えるということが間に合わないのかなという状況になってきております。7年前にも冬休みに導入したということもございまして、それに向けてできるだけ入札を早く行っていくような方向で事務の立て直しを図っていかうとしているところでございます。その下、学校施設等長寿命化計画策定事業、こちらにつきましては、今年度は1年目の調査業務ということで、発注をさせていただいているところでございます。小中学校6校の現地調査を夏休みに行うということで、現在は事務的な打ち合わせと資料をコンサルタントが持って帰っているということでございまして、建築確認申請でありますとか特殊建築物の調査、耐震診断の書類等の整理をした上で現地に入っていただくという形で進めております。その下、学校給食共同調理事業ということでございます。こちらは、安全安心な給食の提供ということで進めているところでございますが、来年の4月、平成30年の4月からの給食センターの調理配送業務の委託を目指しているところでございます。現段階は、調理職員の意向調査、給食調理を引き続き続けたいか、もしくは配置の転換でもいいというようなことなのかの意向調査を行っているところでございます。9月の議会で一定の提案、また債務負担行為等の上程を目指しているところでございます。また、給食センターで、連続式揚げ物機更新事業、こちらにつきましても、現在発注ができておりまして、予定どおり8月のお盆で納品が完了する予定でございます。学校教育課は以上でございます。引き続き、社会教育課の説明をさせていただきます。続きまして、社会教育課の平成29年度主要事業についてご説明いたします。失礼して座らせていただきます。まず、資料8ページ下段の「◆生涯学習」の図書館管理事業では、自習室の設置といたしまして、施設改修工事費として100万円つけていただいております。5月8日に1回目の見積合わせをしたのですが、予算オーバーで不調になりまして、5月16日に再度見積合わせをした結果、99万9,000円で牛尾建設株式会社が落札し、また、契約工期は7月28日までとしておりましたが、現在はほぼ完成している状態であります。次に、9ページをお開きいただきまして、社会教育施設改修事業です。エルデホールでは、昨年に引き続き3年計画で音響設備の更新を行います。今年度は、アンプとワイヤレスマイク4本のデジタル化をすることとしています。次に、「◆芸術・文化、文化財」の中程、柳

田國男・松岡家記念館管理運営事業としまして、第38回山桃忌を開催します。今年度は、「女性の目から見た柳田國男」に焦点を当て、講演会やシンポジウム、淡路人形浄瑠璃を上演いたします。続きまして、その下、地方創生推進交付金事業に510万円をつけていただいております。県指定文化財大庄屋三木家住宅は、4月より主屋部分を土日祝日に公開をしております。公開を記念して、講演会・演奏会・解説会等、さまざまなイベントを行います。また、辻川界限関連グッズを開発、辻川界限文化財多言語化事業等を行います。次に、「◆スポーツ・レクリエーション」です。スポーツ公園では、老朽化しておりますテニスコート2面の改修工事費、また体育館では、利用者が増加しておりますトレーニング室の器具更新の予算をつけていただきました。こちらにつきましては、スポーツ振興くじ助成金の交付内示がありましたので、補正予算を計上させていただきまして、4面すべての改修をさせていただきたいと考えております。社会教育課からは以上です。事務局からは以上でございます。よろしくお願いいたします。

(橋本町長) それでは、説明が終わりました。平成29年度の計画について、努力目標、また主要事業について、なにかご意見なりご質問がございましたらお受けしたいと思っております。

(高寄教育長) はい。

(橋本町長) どうぞ。

(高寄教育長) 平成29年度の福崎町の教育の努力目標は、2ページにも書いておりますように、「大地に根を張り、幹を太らせ、枝を広げ、大きく伸び行く福崎の教育」としております。そして、それがその次には、大きく伸び行くの前に「花を咲かせ」ということ。そして、花が咲いたあとには、実がなるという、これが一つの間人として生まれてから死んでいくまでに人間として立派に育っていく、そういう意味でこれをつけています。そして、花が咲いたり実がなったり、これから何年かかけてそれができるようにしていきたいと思っております。さらに、実がなったあと、それが熟したあと、大地に還っていくわけなんですけれども、その大地に還っていった実の中から種が新しい芽を出します。その新しい芽がまた新しい命を育て、新しい時代にあった人間を育てていく、すなわち世の中の発展にその子どもたちが将来的に福崎町を背負って行ってこれたらいいのになという思いから、この目標を掲げているわけなんですけれども、この目標にはまだまだ将来が続くというんですか、これからも私たちみんなが福崎の教育をしていかなければならないと、こういうふうに思っております。もう1点ですけれども、先ほど町長様の開会のごあいさつにも福崎町のいろいろな福崎町行政について話をさせていただきました。さらに、学校教育課長、社会教育課長のほうから教育委員会関係の話がありました。その中で特筆していくのは、ひとつ、福崎町の大きな改革は、建物等の改革をやってきましたが、しかし、年代とともに少しずつ傷んでいるところも出てきております。子どもたちにより教育環境を保障してやりたいということで、今年は1年間かけて長寿命化計画策定のための調査をしていただいて、そして今後福崎町の校舎・施設をこういうふうに変えていこう、あるいはこういうふうに変えていこうと、そういうふうなものを今年作っていただいていると思っております。さらに、その中で福崎町は外からは財政豊かな町に見えるようなんですけれども、それなりのかかなりの借財といいますか、債権を有している、そういう町であります。そういう町でありながら、町長のおっしゃる福崎町の教育に対するご支援というんですか、ご理解というんでしょうか、そういうことがありまして、今年の2億何千万円の予定で小中学校のコンピュータの入替をしていただける運びになっております。さらに、今年度予算を作成するときに、町長のところへ特に足を運びましてお願いをしてきたのは、インクルーシブ教育に関してでございます。特に本年度は特別支援学級に入る児童が非常に多くなっております。ある小学校では、新1年生の1割を超える児童が特別支援学級に在籍をするということで、その子どもたちの補助と同時

に、担任の先生がその子どもたちの指導にあたる間、他の子どもたちを指導してもらうという意味から学習支援員、昨年12名いたところをさらに5名追加してもらってそういう子どもたちの教育ができる配慮をさせていただいております。おそらく、この辺の市町では、これだけの介助員を学校に送り込んでいる町は福崎町だけではないかなあと、そういうふうな意味におきまして、町長の学校教育に対する考え方も大きくでているように思っていますし、そのことがこれからのち、福崎の子どもたちが大きく成長して、福崎町に恩返しという言葉はどうかと思うんですけど、社会に貢献できる人間に育てていってもらいたいと、こういうふうな気持ちを持っております。またもう一つ、社会教育の方では、図書館に関してもお願いをさせていただきました。ご存知のように、今の福崎町では子どもたちが図書館の中で学習する場所がございません。前々からいろいろな対策もとってきたのですが、この際、町長に無理をお願いいたしまして、特別に予算を作ってくださいまして、図書館の一角に学習ができる部屋を作ってもらうことになりまして、今工事中で、ほぼ完成しているのではないかなと思います。玄関を入れて左側の場所に机を10台おいて、子どもたちが他の図書館の来訪者に迷惑をかけない、そういう形の中で自分の勉強、あるいは受験勉強がしっかりできるという場所を作っていただいたということで、私個人的には大変うれしく思っております。教育長としては、福崎町の教育にご理解を賜っているということを最初に申し上げたいと思っております。ごまをすったわけではありませんので、何かありましたらどうぞ言って下さい。

(橋本町長) 教育長のほうから補足説明ということで、本年特にという中でお話しいただきました。少子高齢・人口減少は、何も福崎町だけではございません。福崎町の場合は、人口は横ばいという形になっておりまして、あと、死亡と出生とを数えますと、死亡のほうが出生よりも随分と多いという形でありますけれども、人口を維持しているということは、生産年齢人口が増えている。社会現象的なところがありまして、それが一つの元気印の形になっていると言われております。昼間人口比率は、1.113で、これは兵庫県で一番多い。この背景は、工業団地・企業団地、その中でも地元事業者であります、福伸電機さん・ウシオ精工さん等々が大きいのではないかと考えております。また、製造品出荷額になりますと、一人当たり直しますと、福崎町は兵庫県下で高砂市に次いで2位。また商品取扱額につきましては、県下で5位といったような形で、そういう意味におきましても、非常に元気印のある福崎町であると認識しているところであります。その中における教育でありますけれども、やはり少子化であります。子ども子育て関係から含めまして、小中学校の教育、また、生涯教育であります分野につきましても、非常に大切な分野になっているのではないかと考えます。ただ、残念なことに、文化協会でありますとか公民館クラブ、老人大学であります分野とかについては、高齢化、超高齢化が見受けられます。二十年前に活動されておった方々がそのまま二十年後も同じような状態で活動されておるといったような状態でありますので、それら等につきましても、団塊の世代を含めた方々が社会進出というんでしょうか、生涯教育の部分に進出していただければありがたいなというように思っております。団塊の世代の人は、集落にも入りこんでいない、老人会というんでしょうか、老人連合会等にも加入していない。また、そういう生涯教育にもあまり出てきていないという形も見受けられています。そこら辺を含め、再度掘り起こしを生涯教育のほうで行っていただきたいなとまたお願いをしなければならないと思っております。他に何かございませんか。ございましたら。

(委員) よろしいですか。

(橋本町長) はい、どうぞ。

(委員) 今日の町長さんと教育長さんのお話しの中で、介助員を増やしていただけたというのは、去年の現場サイドの先生方からも「どうされるんですか」ということをよく聞いておりました。増員していただけたということで、非常にこれは難しい中良く

していただけて、本当にありがたかったなあと思っております。それからもう一つ、先ほど町長が言われた中で、少子高齢化の中で今からどんどん高齢者が亡くなっていくという多死社会を迎える訳です。そんな中、人口が維持されているというのは、多分若い人たちがだいたい流入しているのか、もしくはここに定着しているのかということでしょうから、改めてそういうことを聞くと、なるほど福崎町というのは非常にそういう意味で人が集まってきて、定着してくれているというのが、数とかそういう現象で見えてということなんだなと改めて思いました。実はその中で何点か要望をお願いしたいことがあるんですが、教育委員会で言わないでここで言うておいていいのかなと半分思いながら言うのですけれど、ざっくばらんに言わせてください。実は、今日私どものほうにもかなりの方が来られて、岡山でもちむぎの宣伝をしている、と。いまからそこに寄りたいんだけど、ということで私たちパンフレットを渡したりいろいろやってきましたけれども、非常に県外からもそういう意味でもちむぎやそういうことに注目を浴びていますね。そんなことで、是非マクドナルド計画ではないですけど、小さいときに子どもたちにそうしたものをたくさん食べさせてやる、もしくはその地元の子どもたちにいろんな理解をさせてやる。そして、いずれその子たちが今度大学生になってどこかに行くというときに、手土産に持って行ってもらうとか。とにかく、小さい間にいろんなことを刷り込むというか。こんなことを言ったら怒られますが。地元のいいところを彼らに教えておいてあげる。できれば給食、今でもだいたい出ていると聞いていますが、いろんな形でさらに子どもたちに体験をさせてやってほしいし、麦というのは秋に穫れるのではないんだぞということも含めてですけど、いろいろな体験をできる可能性があるんで、それをさせてほしいということと、食品でたくさん食べさせてほしいということ。それからもう一つ、今日だと思えます。今日来る途中のニュースの中で、この子どもたちの来年度から英語教育がかなり増えるらしいですね。相当英語教育が小学校で増えていくということ、来年度から開始するんだということをして今日ニュースで言っていましたから、明日の新聞をよく読まないといけないなと思えますけれども、こうなると小学校の先生が英語教育ということについて、かなりの負担を感じるんじゃないかなあと思います。いや、前々からわかってきたこととはいいながら、えっ、そんなに小さいときからこんなに英語のリスニングとか会話なんかが増えるっていうことをラジオで今日言っていましたから、ん、ちょっと待ってよ、と。今の現場の高岡なんか非常に少ない人数の中で、これ先生方、英語教育は大変だなと思います。大きい学校でもそれなりの負担があるのであろうなあとということがあって、いよいよそういう社会になったと思えました。そういう英語教育もしくはそういうことについて、現場の先生の声が拾えるようになればいいなと思います。いまからどんな問題が出てくるのかなというところに、ちょっと注目しているのですけれど、是非そうしたことについての耳を我々も持つておかないといけないなと思います。いずれまた教育長を通じてそうしたことをお願いしないといけないことが増えてくるのかなと、そういう具合に思った次第です。要望にも何もなっていませんが、よろしく願いいたします。

(橋本町長) いえいえ。給食センターのもちむぎを使ったレシピはたくさんございます。これらについて、差額分は一般会計の方から補填をしておるという形を整えさせていただいてるわけですけども、以後給食センターでありますとか、農業振興の方面から聞きますと、もう少し、もうもちむぎは一定の分野で使っているのではないかと。反対に、もう少し少なくすればいいのではといったような、現場からの声はそういう具合に聞こえておるんですが、それは私、ちょっと異を唱えまして、そういったようなものではないと言いました。福崎町の特産品であるそういったようなものと、健康食品であるという認識を強く持っていただいて、大妻女子大学の池上 幸江(いけがみ さちえ)先生でありますとか、赤坂の小林クリニックの小林 暁子(こばやし あきこ)先生等々が、いわゆるもちむぎは水溶性の食物繊維が非常に多い、β-グルカン

が高い、タンパク質が多い、整腸作用があるという中で、それらが認識されているという形で、健康食品として認証を受けるべく、いま消費者庁のほうに申請を出しております。これは県立大学とタイアップいたしまして、そういう形の中で作らせていただいた分野であります。なおかつ、それぞれ板坂営農でありますとか高橋営農、これら等はそれぞれ自分のところの特性を活かした中でもち麦精麦を使って米とともにそれらを入れたようなものを作っていくでありますとか、もち麦レシピの中のポン菓子も高橋営農に作っていただいております。味付けしてあるものとしていないものといったように、いろいろなバージョンができておりました。それらについては、福崎町の特産品はもちむぎですよ、という認識は子どもたちにも植え付けをしていきたいし、住民のみなさま方にもそれらの形の中でお願いをしたい。ただ、もち麦という麦は、非常に取れ高が少ない。取れにくい。特に麦の中でも水を嫌う、一番嫌う性質のものであります。大麦の一種でありますけれども、そういった形の中でというところでありまして、昨年は40haを作って60t取れました。それで精麦等々ができておったんですけれども、途中から調整販売をさせていただいた訳でありますけれども、本年のこの3月で売り切れになってしまったというところで、今現在は在庫はゼロです。多くの方に買いに来ていただいておりますけれども、今のところ出すことができない。今年は、50haを耕作させていただいて、100t取れました。こういうことになりますと、昨年度並みに売れますと、20tから30t残るであろうというところで、いったん売り切れをして途切れますと、次再開するときその宣伝がどのようにしてやったらいいのか。途中でまたテレビで取り上げていただければ変わる訳ですけれども、なかなかそういう訳にもいかないだろう。通年のようにすれば、できるのではないか。それと今年と同じく、50haを次年度も作付けしていただけるかどうかということは、非常に営農組合も連携農家さんも今のところ嫌っておる。というのも、取れ高が非常に悪い。1反あたり10,000円の補助、また取れた段階で政府買取価格が非常に低い、取れ高が低い、ということでなかなか組合の人夫賃等々もでないような状況の中で、非常に苦しいという思いをみんなされておるというところ。先ほども言いましたように、水を嫌いますので、川がかりの馬田・新町・西治、それから橋を渡って中島・八反田・吉田といったような田んぼは取れ高がいいんですけれども、板坂でありますとか鍛冶屋でありますとか、米所の土は肥えすぎて反対に麦は作りにくい。そういうところもあろうかと思えます。それと、英語教育であります。これはもう世界の共通語が英語であるという中で、国際力をつけていく中ではもう当然。今現在においても、大学を卒業した時点でTOEICの点数でいえば、600点700点というような形。中には800何点を取る人もありますけれども。これらの専門職の先生方の配置はまた県のほうからあろうかと思う訳なんです。教育方針ですから国における教育の方針が示された段階で先生方の話が出てくるであろう。多分、正規職員ではないであろう。嘱託職員ないし時間を限定したような臨時職員であったり。さきほど中学校のソーシャルワーカーの話が出ておったと思うんですが、週になおしますとわずかな時間である。しかし、英語教育における分野ではもう少し時間をくれるかわかりませんが、学習指導要領が出てからでなければ、時間割が全然わかりませんので、時間割ができて学習指導要領に示されて、その中で教育委員会でもまた練っていただくという形になろうかと思えます。その点も含めまして、注意しておきますので、よろしく願いいたします。

(高寄教育長) まず1点目、もちむぎ教育の話が出たんですけれども、先般こういうものを発売しました。これ、もちむぎサンバという曲にあわせて町民みんなで踊りましようということで、町長・副町長・私と踊りの輪に入っております。

(橋本町長) これを保健センターでかけておったんですね。CDですか、映りますよね。私がもちむぎを持っておったんです。いろいろなものを持って踊っておったんです。そうしたら、町民さんが怒りにこられましてね。「橋本町長にこんなことさせるな。

あの町長はこんなことをするタイプではない」と怒って帰られまして。それぞれのタイプがあるんで。ただ、一つは、もちむぎという特産品を一つのPRと共に、それよりも踊っていただける、しかも高齢者に踊っていただけるというところを一つの視野に入れて形にさせていただいたということでございます。こういうサンバみたいな踊りをしますと、高齢者の方々の体力がある程度つきます。体力がつくと、医療や介護から遠のく。反対にそうすることによって、自分たちの負担分も少なくなる。健康保持増進という形を整えていただければと思います。

(高寄教育長) そういう中で、来年度、農林振興課のほうから要請がありまして、もちむぎの補助を減らすというんですか、給食の分を減らすということをおっしゃっていますので、今も出ていましたが、町民も満足するといいますか、福崎町を代表するもちむぎですので、また支援をお願いしたいと思います。

(橋本町長) いやいや、もうそれは農林振興課のほうに、話が出てきた段階で私がもう言って止めています。

(高寄教育長) ということで、ありがとうございます。もう1点、英語教育のほうですけど、私が答えていいのかわかりませんが、福崎は小学校5・6年生から英語教育云々というところで、いち早く小学校の先生のみでは指導力の問題があるということで、部外から大学の講師の先生などをお呼びして、指導をしていただいております。その影響はずっと続きまして、今年もフレンドリーワールドという組織で、小学校の5・6年生の授業の補助並びに先生方の指導、そして今年からは3・4年生もこれから後授業に出てきますので、その辺まで下ろして進めていただいております。幼稚園に関しては、先ほど言ったとおりでございます。これも手前味噌な意見ですが、フレンドリーワールドの先生がおっしゃるには、福崎町の小学校の英語教育は、西日本有数であると言っておられます。自分たちが指導されているので、そう言っておられるのかどうかわかりませんが、教育委員会の担当もいろいろなところへ行って、そういう場面で福崎町の英語教育について発表してくれたり、そういう形でやっておりますので、安心してはいけないんですけど、兵庫県下ではトップクラスに小学校の英語教育の指導力というんですかね、それはあるのではないかなあと思っております。まあ一つ、来年度以降も町の予算でこういうフレンドリーワールドのような方をご支援願っていただければ、子どもたちの教育も高まるのではないかと思います。

(橋本町長) 非常に英語に対する協力者に福崎町は恵まれておるといえるのでしょうか、そういった形の中で推移しています。今後もそういう形になろうかと思います。ただ、子どもたちが重荷に感じるというようなことでは困りますので、簡潔に肩を下ろしたような形の中で、ただ耳へすんなりと入ってくるような形がいいのではないかと思います。他に何かございませぬでしょうか。なければ、2点目の自然学校について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局) 失礼いたします。総合教育会議で協議すべき事項の中に、「児童生徒の生命身体に被害が生じ、または生じると見込まれる場合に講ずべき措置を協議、調整する」ということが定められておりますので、一般的には、いじめでありますとか体罰の事案によると思っておりますが、この度の自然学校の事案につきまして、この会議で協議、調整をお願いするべきということで、説明をさせていただくものでございます。資料の17ページ・18ページをお願いいたします。失礼して座らせていただきます。17ページ、中段のところに経緯というところがございます。経緯の2行目、緊急福崎町教育委員会を開催、これが6月17日の土曜日に開催をさせていただいたところがございます。その後、播磨西教育事務所への報告、それから翌週に入りまして、19日月曜日には、5年生の参加児童全員に対しまして各学校で調査を行っております。その結果を踏まえまして、上段にあるように、男子児童8名が被害を受けた、またはその可能性があるということでした。可能性と言いますのは、児童本人が自覚をしてい

ない場合もございましたので、その可能性ということも書いております。対象児童の保護者への説明会を6月20日の火曜日に、その8名の児童の保護者に対して行おこなっております。その後、翌日21日には、被害がなかった学校につきましては、説明文を配布。それから21日には、福崎町議会で本会議のあとに全員協議会というものを開催していただいております。報告をしております。田原小学校におきましては、22日に保護者説明会、23日金曜日には朝来警察のほうへ保護者が相談に行かれております。また、翌週に入りまして、27日の火曜日には、八千種で5年生の保護者説明会。29日木曜日には、その八千種の保護者説明会の中で全学年にも説明会をすべきではないかという意見がありましたので、それを踏まえてPTA理事会のほうで相談をされました。その相談をされた結果、賛否両論あったと聞いておりますが、最終的に全学年保護者説明会をやろうということで、7月3日月曜日に説明会をされております。また、18ページの新聞記事につきましては、これは6月23日の金曜日の夕方に急に各新聞社から電話なり来訪が教育委員会のほうにございました。だいたい、4時間以上にわたって集中的にそういう問い合わせが入りまして、翌日土曜日に5つの新聞の朝刊に載ったというような形となっております。17ページの下に今後の対応についての案ということで、書かせていただいております。次年度につきましては、今年6月12日からだったんですが、来年度5月14日から18日までで、1ヶ月早い予定が組まれております。場所は同じ南但馬自然学校という形で考えておりますが、それに向けまして今から今回の経緯を踏まえてやっていくべきことを①から④ということで案としております。1点目は、指導補助員との契約の見直し。組織を通じた契約とすること、補助員個々の履歴書を徴収すること、また契約条項の整理などが必要かと思っております。2点目、指導補助員全員との面接、事前の打ち合わせ。役割・注意事項の徹底などを行う必要がある。3点目、実施の前からの保護者の参画ということも考えられるということで、一つは計画内容を早い段階から説明する、自然学校の現地視察というようなことを考えられる、また実施期間中に保護者が宿泊をするというようなことも考えられるのではないかと考えております。4点目、教職員向けの研修会の実施。これはわいせつ事案を含む危機管理対応ということでの基礎知識の習得を目的と考えております。また、ここには書いておりませんが、本日の会議を受けまして、後日小学校の校長会を臨時で開いて、これらの対応についての具体化を始めていきたいというふうに考えているところでございます。事務局からは以上でございます。よろしく願いいたします。

(橋本町長) 事務局から自然学校についての報告がございました。この事柄につきまして、何か意見等々がございましたら、よろしく願いいたします。

(高寄教育長) はい。

(橋本町長) 高寄教育長。

(高寄教育長) 6月17日に緊急の教育委員会を開きまして、この事件のあらましと今後の教育委員会の(対応の)取り方について、みなさん方と協議しました。ありがとうございました。その方向で私たちは動いております。ただいま課長から話があったとおりでございます。そういう中で、被害届に関しまして、被害を受けた子どもでないと出せないというふうなことで、子ども・保護者、いろいろ話あってもらったんですけど、全員が出すのではなく、何人かは出さない、何人かは子どもと一緒に出したい、と両方にわかれております。そういうことが今一つあるかと思えます。誰が出しているとか、詳しいことは私たち教育委員会も知りませんが、該当の子どもとその保護者が警察のほうへ被害届を出されていて、今現在も調査中であるというふうに思われます。中味については捜査中のことですから、私たちもわかりません。それから、新聞に関しましてですけれども、6月23日の15:30頃からでしょうか、5つの新聞社から次々に電話がありました。前々から新聞報道は多分あるだろうということは話し合っていたわけですが、その結果、報道の窓口は私一本でいくとい

うふうなことでして、今回の5社の新聞報道すべて私から出た取材に基づいて書かれております。中味は多少違いはありますが、すべて私から出ていると思ってもらっていいかと思えます。その中で、特に私がお願いをしたのは、私の名前は出してもらってもいいから、もちろん子どもの名前は言っていないんですけど、福崎町4つの小学校の名前は書いてもいいけれども、××小学校で何人被害者が出たとか、××小学校でどうのこうのというような、そういう被害にあった学校名は載せないでくださいとお願いしました。記者の人も帰って上司と相談しますと帰っていきましたが、どのところもそういうところを考慮してくれただけではないかなと思っております。新聞が出ましてから、それ以降いろいろあったんですけど、それに対する地元からの要望とかそういうものは一切なかったんですが、昨日1名、教育委員会へ他の用事で来られた方が、新聞報道は詳しすぎるのと違うか、誰が報道に対応したのかということでした。そういうふうなことがお一人ありました。それに対して、教育委員会としては、教育長が責任を持ってすべてを答弁したという対応をさせていただいております。そして、今後は今の課長から報告がありましたように、再度検証をし直して、そして来年度にむけて取り組みたいと思っております。以上です。

(橋本町長) ありがとうございます。自然学校はよろしいでしょうか。そしたら、3点目の意見交換についてに移らせていただきます。何かご意見等々あればどうぞ。どんな些細なことでも結構です。

(委員) はい。

(橋本町長) はい、どうぞ。

(委員) 今年の1月に体育館の改修が終わって、その後トレーニングルームでもかなりの数が、以前よりも増して利用が増えております。そういったところで、今回も、今日の報告にありましたように、予算をとっていただいて、それぞれの機器の更新、これは本当にありがたいなと思っております。年度末にもランニングマシンの更新もしていただいて。見ていましたら、だいたい平成3年度更新の機器がほとんどになっています。それがこれからまた順次更新されるというのは、利用している利用者みんなが期待もしておりますが、ちょっと場所的にはせまいかなというふうな、今の人数からしますとですが、みえます。だいたいの時間、最近学生も増えていきますので、10人ほどが使ったら本当にいっぱいになってしまっています。また、貼り紙もしていただいているのですが、機器の上でスマホをしない、大騒ぎをしないと書いてあるんですけども、みんな関係なしに座ったままやっています。なかなかそれは注意もしくくて、空くののを待っているんですけども。これから乞うご期待ということで、今後の更新は期待しています。また、七種の野外活動センターの池のロケーションがものすごくいいということで、カヌー教室をするときには以前に県のカヌー協会の副会長さん、西宮の方ですが、「こんないいところ、もっと宣伝しないともったいない」と言われ、どういうふうに宣伝するのがいいかなと思いつながら、普通にブログ発信ぐらいのことしかできていないのですが、そういったところでこれからは頑張って、もう少しでもアピールできたらなと思っております。それと今回、七種の滝へ行く林道で土砂崩れがあったということで、今年のキャンプでは滝のほうは難しいかなと思うのですけれども、順次そういうところも役場のほうが整備にとりかかっているということなので、うまくいけば22日に間に合っただけであればありがたいのですけれども、難しいかなと思っております。以上です。

(橋本町長) ありがとうございます。野外センターの奥池を含めて、七種全体として6月の一般質問でも聞かれました。議会広報がこれから出るんですが、私が答弁したのはほぼ出ておりません。どの議員さんにも私は答弁しています。多分私の答弁が載っているのが1人か2人。今までもそういうような状態です。多分小林議員だったら、1行ちょっとぐらいだと思います。野外センターにつきましては、昭和61年、62年、63年、それから平成元年と2年くらい、5カ年くらい、毎年2,000万円か

ら2, 500万円入れて整備をさせていただきました。郵政省のとか、そういったような当時の自治省ですね、まちづくり事業ということで、地域総合整備事業債等々を活用してやっていった訳ではありますが、当時から含めて、高速道路、インターチェンジが一番自然を満喫するのに一番近いところはどこですかと言われれば、この七種地区と言われておりました。貝原知事も知事になって初めて、多分上がっていく途中で碑があるんですけども、そこの字を書かれた。知事になって初めて書かれた字です。そういった関係を含めて、県も非常に協力的な態度で当時は見ていただきました。当時は建設課と言っておりましたが、ここの福崎土木とか姫路土木を通さずに、県へ直接企画参事といったようなところがありました。そこの協議の中で、県道拡幅がありますとかそういう動線の部分を含んだ見直しをかけていただきました。また福崎町の七種の開発に力を入れていったということです。そういう意味から言いますと、県道田口福田線、あの路線は田口の公民館のところまでは早く進めていただきました。ただ、1点、できなかった部分もある訳なんですけれども、残念なことに。それ以外のところは、公民館のところの橋から野外センターまでの間については、拡幅もしくは待避所を整備するといったような形で対応しますということです。ここ5、6年、県も非常に財政的に厳しいといった中で、手を入れていただいていないというのは実情です。そのあたりはお願いをしていかなければいけないところなのですが、なかなかそこまで手がまわっていないところなんです。いわゆる安全安心のまちづくりのための、里山ですとか治山ですとかため池整備でありますとか、西谷における急傾斜地など、そういったような住民の生命と財産を狙うようなところへ財政を集中しておくというような対応になる。当然、野外センターのロケーションは非常にいいところで、水にもきれいに映りますし、そういう意味からもいいですと外への情報発信というのは、こういったような携帯のブログだけではなく、兵庫ジャーナル、兵庫県で出しているものや、播磨時報などへ記事掲載・写真掲載と共に行っていきたい。兵庫ジャーナルであれば、電話一本で取材に来て下さったりということもありますし、そういうものを活用していただければと思います。いいところであったので、町も一番最初に奥池、それからその上の散策道や桜の木、桜の木でもいいものは持って帰られてしまう。寒桜のいいものなどは持って帰られてしまう。始めは鹿が食べているのかと言っていたら、根から掘り起こしていた。そういう人もやっぱりいらっしゃるんですね。人の家の庭を覗いておいて、花を鉢植えのまま持って帰ってしまう、そういう人もいらっしゃる。「なんや知らんけど、誰か来て花持っていきよったつて」と。そんなことを言われたこともあります。そういうこともあるのかもわかりません。七種に対する取り組みは、福崎町の総合計画の位置づけでも観光という観点も含めて、自然満喫という形の中で対応する。それから、滑落防止については、今言われましたように、それらを予見できるようになどもございまして、それらは土嚢の大きいものを緊急に配備して、崩れてきてもそれらが山道の中へ入って行って、登山者のところへ届くということのないようにしている。危険な箇所については、そういった形で対応していますが、毎年のごとく七種は滑落し、大けが、もしくは死亡事故があります。また、中には、居る場所がわからなくなってしまうと。夫婦でありながら、一緒に登っていて全然違うところにいるということもあり、たまたま上から確認ができましたのでよかったのですが、しかしヘリコプターからは救助できなくて、やっぱり山を登っていかなければならなかったということで、最終的には地元区長さんと救護者、消防ですね、が夜中の12:00頃までかかって、「動かないでおいてください」という対応になったことがありました。私、副町長時代に、「見つかったからもう帰ってもらっていいです」と。見つかったのはちょうど17:00頃、そこから7時間くらい。それとか、やっぱりお年寄りの方が登ると、足が疲れているのが、なかなか本人自体が気づかなくて、踏ん張りがきかなくてそのまま滑落に至ってしまうといったこともありますし。例えば、つなぎ岩のところでも、ちょっと隙間が開いているので、

跳ぶような動作になるときに、踏ん張りがきかなくてということもあります。ちょっと持てるようなものがあつたら、ちょっと違うのかなと思ったりもします。ただ、七種槍の方へ行くあの方面については、実は山登りの登山道ではないんです。それをみんな七種槍、七種槍と勝手な名前をつけてそれをぐるっとまわるようにされていますが、そういうように本格的にするのであれば、登山の専門家といったような方々と整備をやっていただけたらと思います。福崎町にも山の会があって、そういうところが今までは協力して頂いておりましたが、山の会の会員さんにおかれましても高齢化されているところがあって、ちょっと残念です。町職員のOBの中にもそういったことが好きな方がおりますので、そういったところにもお声かけをさせていただこうと思っています。いずれにしましても、七種全体につきまして、総合計画の中に位置づけがありますので、生涯教育というような形ではありませんが、野外センターがあるということが一つの味噌でありまして、青少年野外センターですから、そういう使い方をして頂ければと思います。利用者も夏を中心として、結構あると思っていますし、野外センターまでは車でシュッと行ける。途中からは山道でちょっと危険箇所があるんですけども、今からの対策については、山門からちょっと上がったあたりで自動車をおいていただかなければいけない、滝の下まではいけない状態。まちづくり課が応急的に対応しなければならぬということで、いま緊急に動いてもらっているところです。そういうところで、もう位置づけはできていますので、あとはできるかできないかということになります。力の入れよう、どこに予算配分を求めていくかが非常に難しい状況です。教育長も言われましたように、人口20,000人の町で借入れも非常に多い。会計は違いますが、公共下水道事業が一気に進みましましたことで、借入れも非常に多くなっています。それらの借財の返還金につきましても、本来は使用料で徴収すべきところなんです。一度に徴収するとなれば、それぞれ住民さんの負担していただくような項目が非常に多くなってくるということになってきますので、一般会計から賄いをつけておるということです。一般会計からの賄いにおいて補填するということは、一般会計のほうでやりたい事業ができないということで、会計が順繰りでたちごっこをしているといったような状況というのが今の状況です。そこへ駅周辺整備が今度入ってきましたので、余計に厳しいのかなという状況です。一方、借入れも多いんですが、交付税で返ってくるといったような措置もしておりますので、そこを含めた中では補助率75%から80%、そういう事業を目指しているところです。体育館の横の駐車場を作りました。あれも防災・減災事業でやりまして、防災倉庫をちょこっと付けておるんですけども、支出的にはあれが防災倉庫と言って説明すれば防災倉庫に見えるのかもわかりませんが、普通であればあれは社会教育施設の駐車場と見えると思います。防災・減災事業で100%の借金なんです。交付税で75%返ってくるという形を整えておりますので、75%、3/4の補助金をもらったのと同じ状態でさせていただいたということになります。結構、福崎町は防災・減災事業を使わせて頂いており、あのさるびあドームも防災・減災事業です。隣に防災・減災の倉庫を置かせていただき、そこに発電機等を設置させていただいております。大義名分は災害時の物資受入施設であるというような言い方で、あれら等も教育施設として利用していただいて、子どもからお年寄りまで使っていており、ありがたい施設となっています。行政の幅は広いので、教育と関係ないと思っても、それが教育になったり、防災・減災で災害対策用になったり。他にご意見ございませんでしょうか。そしたら、意見もできしたようでもありますので、これら等について、協議、調整事項について終わらせて頂きます。司会進行を事務局にお返しいたします。

(事務局) 橋本町長様、ありがとうございます。次第の5番、その他に移らせていただきます。最初に事務局から報告をさせていただきます。昨年度と同様、平成29年度におきましても、現在のところ総合教育会議を概ね半年に1回、年2回の開催を予

定しております。ですから、だいたい11月頃の開催ということで、改めて日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。なお、緊急の案件がございました場合には、予定外の開催ということもございますので、そのときはまたご協力をお願いいたします。委員のみなさまから何かその他でございますでしょうか。特によろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは以上でその他を終了させていただきます。次第の6番、閉会のあいさつを高寄教育長からお願いをいたします。

(高寄教育長) みなさん、どうもありがとうございました。町長様におかれましては、公務多用な中、福崎町の教育のために大変貴重な時間を割いていただきまして、本当にありがとうございました。今後、私たち教育委員も福崎町の教育のために、力一杯頑張っておりますので、どうぞこれからも今まで同様のご支援をよろしくお願いしたいと思っております。今日はどうもありがとうございました。

以 上

署名委員 高 寄 十 郎

署名委員 石 川 治